

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、施設整備に関しましては、地域の皆様とこれまでかなりやり取りをさせていただきまして、当面このスタイルでということと考えておりますし、あと古川議員のほうからも昨年3月ぐらいですか、いろいろ施設整備についてご提言を頂いたところでございます。市としては、先ほどの市道の新設というところも含めまして、まずは今の形で造らせていただいた後にも、これはお約束いたします。その後の利用形態、利用状況というものを見まして、必要なインフラ的などところということは、注視して、必要な対策を取っていくというスタンスは、変わってございませんので、そのように取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

ぜひともそのようにお願いをして、私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、古川議員の質問が終わりました。

11時30分まで休憩といたします。

〈午前11時18分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉岡静夫議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉岡議員。〔20番 吉岡静夫君登壇〕

○20番（吉岡静夫君）

吉岡であります。よろしくお願ひいたします。

質問の通告書どおりお話しさせていただきます。

1つが、「議会・議員」と「行政・市長」の在り方。

2つ、対「高齢者」・対「高齢化社会」の在り方。

3つが、旧姫川病院など、市内各遊休施設などの緊急時における利活用の在り方。

今回は、この3点に絞りで、お伺いいたします。

それぞれ時期も時期であります。市長、改めて考えるところをお聞かせいただきたい、よろしく  
お願いいたします。

まず1、「議会・議員」と「行政・市長」の在り方。

2020年5月3日付「朝日新聞のアンケート調査」では、こうなっています。

「国会の議論にどの程度関心がありますか。」。

大いに関心があるは、10、これは%のはずです。

ある程度関心がある、44。

それから、あまり関心はないが、35。

全く関心はない、9でありました。

「国会が法律や政策について議論を尽くす役割を果たしていると思いますか。果たしていないと  
思いますか。」。

果たしているが、17。

果たしていないが、77。

もう一つ、「国会が政府をチェックする役割を果たしていると思いますか。果たしていないと思  
いますか。」。

果たしているが、18。

果たしていないが、76でした。

そこでお伺いします。市長も十二分にご存じのごとく、私は、「議員・議会の市長・行政チェッ  
ク機能」については、事あるごとにその必要度、あるいは重要さを強調し続けております。

しつこいようですけれども、この機に改めて、またお聞きをさせていただき、このアンケート調  
査結果、どう受け止めておられるかをお聞かせください。

2番目に、対「高齢者」・対「高齢化社会」の在り方。

これは2020年5月13日、こないだの13日付の日報では、「県19年度高齢者基礎調査」  
の内容を報じています。概要はこうです。

「一人生の最期を迎えたい場所について、『自宅』との回答が51.4%、それから、在宅介護  
を希望する人も半数以上を占め、そのためには急病時に駆けつけてくれる医療・介護体制の整備を  
求める声が目立った。

人生の最期に関する質問は、今回初めて設けたんだそうです。最期を迎えたい場所は、自宅以外  
で『病院』が15.5%、『介護施設』が4.4%。

最期の過ごし方を誰かに相談したことがあるかについては『全くない』が68.9%。

介護が必要になった場合について、『家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば  
自宅で介護を受けたい』など、何らかの形で在宅を望む人が合わせて53.2%を占めた。

自宅や地域で暮らし続けるために必要なことは、『具合が悪くなったときに駆けつけてくれる医

療・介護体制が整っていること』が最多の62.0%。『ショートステイやデイサービスなどの介護サービスが必要なときに使えること』が57.5%、医療・介護サービスのさらなる充実が求められている実情が明らかになった。

悩み事については、『自分・家族の健康のこと』が50.5%、『寝たきりや体が不自由になり、介護が必要な状態になること』36.1%、『生活費など経済的なこと』26.3%と続いた。心の不調についても4割強が感じておると。」。

そこでお伺いします。

私自身、この5月21日、84歳を迎えさせていただきました。年寄り面をするわけではありません。むしろそれなりの弱さ、じれったさを思い知る、思い知らされることのなんと多いことか。そんな思いを至るところで訴え続けさせていただいております。

その1つが、やはり「高齢者・高齢化社会対応」、「行政の支援ではない。むしろ行政の責務と位置づけなければならない」があります。一方で同じく「行政の根幹にこの問題、据え付けよう」があります。

改めて、しつこいようですけれども、この思い何回も訴え続けてきましたけれども、市長、どう受け止めておられましようか。お聞かせいただきたい。

なお、併せて、当調査の数字など、当市の場合はどうのようになってんでしょうか。

それから3番目、旧姫川病院など、市内各遊休施設などの緊急時における利活用の在り方。

今次の「コロナ」に係る対応について、いろいろな方から様々なご意見を頂きました。その中から絞り込んだ形で取り上げさせていただきます。

「インフルエンザだと思った患者が実は新型コロナ肺炎に感染していた場合、糸魚川総合病院に行ってしまうと、院内感染で医師・看護師などが出勤停止。そうなると、盲腸、脳出血、心臓病などの緊急手術の必要な患者が遠方の病院に転送されて、助かる命も助からない場合が出てきます。

このような事態を避けるためには、この市内に、今回のコロナ騒ぎのような場合、糸魚川総合病院とは別に対応できるようにしておかなくてはならないのではないのでしょうか。

今、幽霊屋敷の旧姫川病院を活用したらなどー」でした。

そこでお伺いします。

私、「旧姫川病院」だけに絞り込んでいるわけではありません。が、確かに寄せられたご意見の中に同旨のものが多かったのです。

市長、このような現実の中で、改めてでありますけれども、このようなご意見が多い。このことをどう受け止め、どう対応すべきか、しつこいようですけれどもベストとは言えないまでも、ベターなのか、お考えをお聞かせいただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

1回目をこれで終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉岡議員のご質問にお答えいたします。

1 番目につきましては、国民の国政に対する関心の度合いであると考え、市民の二元代表である私たちが、市政運営についてしっかりと進めていくことが重要だと受け止めております。

2 番目につきましては、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、引き続き関係機関と連携し、取り組んでまいります。

また、平成29年に実施した高齢者福祉計画第7期介護保険計画策定のアンケートでは、約6割の方が、介護が必要になったとき家族からの介護や介護事業所のサービスを受けながら自宅に住みたいと回答いただいております。

3 番目につきましては、糸魚川総合病院は地域唯一の総合病院で、これに代わる機能を確保することは困難でありますので、院内感染を防止するため、厳重な感染防止策を講じていただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉岡議員。

○20番（吉岡静夫君）

再質問に入らせていただきます。

特に今回は、コロナ騒ぎといましようか、その中で長時間、皆さんお疲れさまであります。できるだけ時間に気を使いながら努力してやらせていただきたいと思います。

まず、最初に順番を変えて3番目のほうから入らせてもらって、2番目、1番目の順に取り上げさせていただきます。

そこで、3番目の1番、旧姫川病院など、市内各遊休施設など、緊急時における利活用の在り方から入らせてもらいますが、コロナ対応の中でもこれはもう12日、15日、そして本日、いろんな角度からいろんな取り上げ方がなされました。私が、今回その中で取り上げようとおった遊休施設のことについては、また機会を改めて、この問題は別の機会に角度を変えるなどして改めて取り上げさせていただきます。ということで、あえて2番目の問題につきましては、今回は、次回、全く勝手な話ですけども次回に頑張らせていただきたいと思います。

そこで、次の項、対「高齢者」対「高齢化社会」の在り方。これは正直言いまして、このさなかにこんなことを出して悪いんですが、私自身が、言ってみればまさにそのさなかにいる。日常、24時間、頑張らせてもらっております。この大変さというものは、弱いもので、なってみなきゃ分からんという気持ちで今やっております。本当にこんなにつらいものか、大変なものかどうか分かって、本人が一番大変なだけども、周りの人も大変。それを全部身をもって今、強がり言えば体験させてもらって歩いております。

そういったことで、お涙頂戴ではありませんけれども、そういういわゆる体ごと、心ごと、その現場でおるところをせつかくの機会に、せつかくの場で訴えさせていただく、これはいい、ありがたいことだと思っております。その辺をひとつ、市長ばかりではない、ここにおられる議員の方々もちろん市の方々も、それから傍聴に来ておられる方々もいただければありがたい、その場を持たせてもらってありがたいと、こう思っております。よろしくお願いいたします。

そこで、私が用意しとったところへ入らせていただきますけれども、私は、高齢者問題ばかりじゃなくて、何ていうんですか行政の在り方、言わずもがなというか分かったよって言われるぐらい言い続けてきましたけれども、いわゆる市民と、いわゆる行政の力の差というものは、双方冷静に見極めて対応することが肝要だ。これは前3月議会で、私がいろいろ申し上げたものをかいつまんでおるんですけれども、市長の、市民の中にはいろんな頑張ろうとか、負けるなの、元気でとありますけれども、残念ですが、悔しいけれども、それができない人も多い。しかも増えてる。そういうところを、何と言いましょか元気になるのと、そういうところを行政執行の根っこに据えていくべきだとつくづく感じております。

年を取りますと、もう年を取るだけでも弱い。同じ人間で同じ社会生活をやったから、老若ないわけです。でも、そういう現実には置かれるという、そこをみんなで考え合おうと、それが一番の行政の根っこだろうと。分かっているよってば市長あたりから言われるかもしれんけれども、分かっているかもしれんけれども、そこをくどくどく訴え続けております。その辺をひとつ、何ていうか、お考えいただきたい。市長は、これも3月のときだったと思うんですけれども、市民の誰もが住み慣れた地域で、いつまでも健康で、生きがいを持って充実した生活をと。こういうふうに言われております。これは3月の会議録の抜粋ですけれども。ここは当然です。市長であろうが、市民であろうが、私たちであろうが同じだ。ということで、私は、その先のというか現実はどうかと、どうあるべきかということをお訴えしているわけです。いかがでしょうか、そののところを、また、またこういう聞き方をするんですけれども、お考えを市長、お聞かせいただきたい。

これが2番目のというか、高齢化社会への再質問であります。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。

〔「いいよ、市長に聞いてる」と呼ぶ者あり〕

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

高齢者を今、吉岡議員が指摘しながら質問されましたが、高齢者のみならず、やはり市民は押しなべて、自分のふるさと糸魚川で住み続けたいという思いの方が市民の一番のお気持ちだろうと思っておる次第でございます。そのためにはやはり行政は何をするべきかというところが、私は一番の原点だろうと思っておりますので、そういったところをしっかりと進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉岡議員。

○20番（吉岡静夫君）

市長の言葉というのは、私、好意的に取っていつもおるんですけれども、一生懸命頑張るとる、

俺らは頑張っておるんだと、そう言いたい気持ちでいっぱいなんだろうと思いますけれども。でも、私は私でまた立場、立場じゃないんだ自分の思いというものをぶつけさせてもらって、これまで来ました。特に何も俺は年寄りだよ、俺は今こういうふうになってるよという、それを見せびらかしたり、そんな気持ちは毛頭ありません。自分がなってみないと分からんということをつくづく感じてるもんだから、せつかくのこういう場を与えてもらい、機会を与えてもらってるもんだから思いの丈をぶつけさせてもらっておるんで、その辺をひとつ十分考えていただきたい。それが私の一番の狙いでもあります。

言い出せばきりがありませんけれども、日常生活の一つ一つをやることは、これほど大変なことであるということは、この私自身が、情けない話かもしれないけれども、周りにいろんなケースを見てきました。また、相談も受けてきた。私もそういう中に入ってやったこともある。だけど、こんなにひどいとは、正直、私は今、市長は高齢者問題ばかりじゃない、ある。確かにそうです。いろんな考え、いろんな思いで、本人が一番だと思うんですけども、思うようにならない。言葉を出せない。思いを出せない。そういう人がいっぱいおる。そして、その周りで、私のようになんてちょっとおこがましいけれども、一生懸命、家内の場合は、頭もそちらも何にもないんですが、足が動きにくい。それで非常に一番苦しんでるのは本人だと思っております。そういう中で暮らしております。それでもおかげさまで福祉関係のいろんな、この場でもそういういろんな話は出てきました。確かにそういういろんな方々のお力をもって、一番大変なのは本人だと思うんですけども頑張ってます。そういう意味では、行政というのはやはり、そこから先は非常にまた押しつけがましいけれども、私が今までずっと同じこと言ってきたけれども、やはりそういう福祉とかそういうところへ力点を置いて、力を置いて、当たり前前っちゃそれまでなんだけど、そう思って皆さんおられると思うけれども、やっていくべきだ。これは私の本当に思いであります。わがままかもしれない。吉岡さん、議場ででかいこと言って、「ん」って言われるのは困るんだけどもそうじゃない。誰だってる、そういう弱い立場に。その辺をぜひこういう場で訴えさせていただきたい、そんな思いでこの2番目の、対「高齢者」対「高齢化社会」、何も高齢者ばかりじゃありません、もちろん。だけどそのことを改めて、重ねて訴えたいという思いが一番強いもんだから、わがままといや、甘えといえどそうかもしれない。せつかく皆さんおられるんだから、こちらにもいっぱいおられるんだから、そのことを改めて強く訴えさせていただきました。

市長、しつこいようですけども、同じこと言わせて申しわけないんですけども、お考えを、どうだいおまえ、んなこと言ってとか言わんで、言わんと思うけれども、お言葉を頂きたい。申しわけない。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市民の皆様方、市民生活の中で本当にいろんな課題、またご苦勞をされておられると感じておる次第であります。そういったところをやはり行政はどういったところと連携やご支援できるか、また、行政のできる場所は多くあるんだろうと思うわけでございますので、やはりその時代時代、

またその時々にはチャンスといいたいでしょうか、その機会を外さないようにして捉えていかなくてはいけないだろうということを感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉岡議員。

○20番（吉岡静夫君）

極めて中途半端な時間ですから、もう少し時間を頂ければできるだけ一生懸命やって、皆に迷惑をかけん程度のところまでやらせていただきたいと思いますので、お許しいただきたいと、ちょうど12時になるところですけれども、お願いします。

市長の言葉を聞いて、こんなに俺はそうだよなと思いました。自分が追い込まれてる。自分が弱い。その中にいるから、なおさら今の言葉というのは、非常に何て言うのかな、言い方悪いけど仲間じゃないけどありがたいなと、うれしいなと思って聞かせてもらいました。決して、お世辞でも持ち上げでもないです。頑張るまいかねと、こっちもそう言いたい。

順序がチャンバラなるかもしらんけれども、時間も気になるんで、1番目の「議会・議員」と「行政・市長」の在り方というところへ、ちょっと再質問のところへちょっと持っていきたいと思います。

過去の会議録見ると、市長答弁の中では結構フレーズがありました、この議員と市長というか行政の関係は。吉岡議員も質問の中でお話いただきましたが、議会の皆様方が議論する。そして、議論したものを我々はお聞かせいただいて判断していきたいと、こういう言葉もあった。私は、それに対して、これもいつもの常套句ですけれども、おかしいものはおかしい、駄目なものは駄目ということを議員は言うべきだ、言わなきゃ駄目なんだと。それをぶつけ合うところに議会基本条例の存立もあったんだと。こんなことを主張をぶつけてきました。全くそれは今も変わっておりません。

そしてもう一つは、同じようなことを言ってるんですけれども、会議録の中から選び出しますと、議員は一部の、一部のというか一定の利益を追うより全体利益をどう高め合うか、あるいは活動すべきか、そういうことを大事にし合おうじゃないかと。これは私、会議録、今、言葉自体少し変えています。これは会議録に載ってました。理念を重視というのは弱者、少数者重視につながる。結果、議員・議会というものは、より近く、市民に近いものになるんだと。そして、結果大きな無駄遣いはなくなる。そして結果として、様々な市民の中から様々な人材が議会を目指しやすくなっていく。そういうことも私は言わせてもらっております。いわゆる対議会、対行政そういうものの在り方というものを生意気にも高いところから論じておりました。このことについて、せっかくの機会ですから市長、改めてちょっとお伺いさせていただきたい、お考えのところを。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川市の自治体は、やはり二元代表制で運営いただいております。議員の皆様方におかれまし

ては、市民の付託を受け、そして今ほど議員ご指摘のように議会ですれをおまとめになって、また提言、また我々のやる行政に対しては、その監査、きちっとチェックをしながら執り行っていただいております。弱いか強いかではなくて、やはりそういった意味で我々行政といましては、そういった市民の付託を受けた皆様方のご意見というのは、やはり重く受け止めて対応していかなくてはいけないと思っております。これからもやはりそういった議員の皆様方のご意見というのは、しっかりと受け止めながら進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉岡議員。

○20番（吉岡静夫君）

毎回そうなんだけれども、市長はそういうふうに、どう受け止めとるか分からんけれども、釈迦に説法みたいなことをあまり言ってもらや困ると思つとるんかもしらんけど、私はあなたの、市長の私と近い思想でいろいろやっていけると、ちょっとおだてて言えば、そういうふうに私は励みたい。質問というよりもこれは、励ますという言葉は失礼かもしらんけど、そう思っております。

今日は時間もないって、勝手に自分で決めたようで悪いんだけど、こういうときでもありますので、この辺で私の質問を言うだけ言って、そういうお答えも頂いて、これである意味では、私もよかった。自分のこともあれだけ出しました。家内は、これテレビを見ておるかどうかわかりませんが、喜ぶだろうと思います。そういう意味で、家内であれ、旦那であれ、こういう苦しみというものを、しかもこの場で出し合えるというのは、本当にこれは市民の皆さんのおかげであります。そして、また皆さんのおかげ、ここにおられる皆さんのおかげ、そう思って頑張っておるつもりなので、その辺はまた酌んでいただいて、これからの行政、そういう意味では私はチェックすると言ってますけれども、チェックする議会ももちろん大事、議員は。だけど、そういうのそうだよなって思いがあったら、手を握り合えるような、そんな暮らしを私たちは、私はしていきたい、そう思っております。そういう意味では、今日は何かちょっと私自身が非常に難しい立ち位置でしゃべらしてもらいました。あるいはわがまを言わせてもらいました。また、いろいろご意見を、むしろ頂いて、吉岡、おまえ何を言いたいんだと、そういうふうなことを言っていたら、また、議員の皆様からも助けていただき、市民の皆さんにも訴えて、進ませていただいて、今日はちょっと私自身がちょっとおかしくなっておりますので、その辺はご容赦いただきたいと思っております。

これで、私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、吉岡議員の質問が終わりました。

これをもって、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後0時02分 散会〉